

1 相対度数とヒストグラム (14~15点)

- 1 **0.3, 0.35** A学校の相対度数 = $9 \div 30 = 0.3$ 。B学校の相対度数 = $14 \div 40 = 0.35$ 。相対度数で比較すると、B学校の方が割合が高い。
- 2 **50** 相対度数 = 度数 ÷ 全体の度数。 $0.3 = 15 \div \text{全体の度数}$ より、全体の度数 = $15 \div 0.3 = 50$ 。
- 3 **25** 累積度数は各階級までの度数の合計。20 ~ 30の累積度数 = $5 + 8 + 12 = 25$ 。

3 ヒストグラムと資料分析 (各14点)

- 4 **A組の範囲は40点、B組の範囲は10点。A組の方がデータの散らばりが大きく、B組の方がより均等で密集している。** 範囲 (最大値 - 最小値) を比較することでデータの散らばりの大きさを判断できる。A組は55 ~ 95点と広いのに対し、B組は70 ~ 80点と狭い。
- 5 **21人** 相対度数が最も大きい階級は0.35の階級。人数 = $60 \times 0.35 = 21$ 人。

4 選択問題 (各14点)

- 6 **ウ. 25人** 度数 = 相対度数 × 全体の度数 = $0.25 \times 100 = 25$ 人。
- 7 **ウ. 3番目** 累積相対度数 : 0.12, 0.40, 0.75, 0.93, 1.0。初めて0.5を超えるのは3番目の階級 (0.75)。